

友愛会 - その歴史と活動 -

友愛会は1912(大正元)年8月1日、東京芝のユニテリアン教会惟一館(現友愛会館・コンドル設計)で、鈴木文治、梶井與雄ら15名により創立された。

1898(明治31年)には安部磯雄らにより社会主義研究会(後の社会民主党)が創立されており、ユニテリアン教会・惟一館は、日本の社会主義運動、労働運動の発祥の地とされている。

友愛会は、労働組合非合法の時代に多くの労働者の支持を得て組織を拡大し、1921(大正10)年に総同盟と改称した。総同盟は政府・資本家の激しい攻勢の中、神戸の川崎・三菱造船所争議(写真)や千葉の野田醤油争議など歴史に残る幾つもの労働争議を闘い抜いた。また、総同盟は1925(大正14)年には共産系組織(評議会)を除名するなど、何度かの組織分裂の痛手を受けた。総同盟の労働組合主義労働運動と評議会の共産主義労働運動の対立・競合の構図は、今日に残されている。

左派系組合を除名し、現実主義を確立した総同盟は、労働(団体)協約締結運動を推し進める一方、各種共済・福祉事業に取り組み、また1926(大正15)年には社会民衆党(戦後の日本社会党、民社党)を支え、労働基本権獲得と国民生活向上をめざす合法的な政治活動に取り組んだ。こうして友愛会・総同盟は、戦前期日本労働運動の本流となった。しかし、次第に強まる戦時総動員体制により1940(昭和15)年、遂に解散に追い込まれた。

戦後、友愛会・総同盟は1946(昭和21)年に総同盟として復活。その流れは何回かの合流・分流を繰り返した後、1954(昭和29)年の全労会議、1964(昭和39)年以降は同盟を本流とし、幾つもの労働団体の中に伏流水として流れ続けた。

同盟は自由にして民主的な労働運動を謳い、労働組合主義に基づく労働運動を展開したが、1987(昭和62)年、労働運動の一層の発展をめざして連合(民間)結成に参加し、組織を解散した。

こうして1912年の友愛会を源流とする日本の労働運動は、戦前・戦後を幾つかに分流しつつ発展し、総評・同盟・中立労連・新産別の労働4団体を経て、1989年に連合(右写真)として再合流したのである。

2012年、友愛会創立100周年記念事業として新しい友愛会館が建設され、8月1日には友愛労働歴史館が新装オープンした。

友愛労働歴史館は、常設展「日本労働運動の100年余」で、労働組合期成会・友愛会から連合までの日本労働運動100年余の歩みを展示・解説している。また、企画展では友愛会・ユニテリアンゆかりの人々や組織を取り上げ、そのメッセージを発信し続けている。

友愛会創立を記念する会と友愛労働歴史館は、協力しつつ友愛会創立の意義を顕彰し発信している。



鈴木文治

梶井與雄



争議(写真)や千葉の野田醤油争議など歴史に残る幾つもの労働争議を闘い抜いた。また、総同盟は1925(大正14)年には共産系組織(評議会)を除名するなど、何度かの組織分裂の痛手を受けた。総同盟の労働組合主義労働運動と評議会の共産主義労働運動の対立・競合の構図は、今日に残されている。



友愛会綱領

大正元年八月一日

- 一、我等は互に親睦し、一致協力して、相愛扶助の目的を貫徹せんことを期す
- 一、我等は公共の理想に従ひ、識見の開発、徳性の涵養、技術の進歩を図らんことを期す
- 一、我等は協同の力に依り、着実なる方法を以て、我等の地位の改善を図らんことを期す

友愛会・総同盟・同盟・連合の略年譜

- 1912(大正元)年 8月1日、鈴木文治らユニテリアン教会惟一館(設計：ジョサイア・コンドル)で友愛会を創立
- 1919(大正8)年 友愛会、大日本労働総同盟友愛会と改称
- 1921(大正10)年 友愛会、日本労働総同盟(総同盟)と改称。神戸で川崎・三菱大争議
- 1925(大正14)年 総同盟、共産系組合を除名。評議会結成。総同盟第一次分裂
- 1926(大正15)年 総同盟、社会民衆党(社民党。安部磯雄、片山哲ら)支援。総同盟一部メンバーが日本労農党(日労党)結成。総同盟、日労党系組織を除名。総同盟第二次分裂
- 1927(昭和2)年 岡谷の山一林組争議、野田の野田醤油争議など起こる
- 1929(昭和4)年 総同盟第三次分裂。全国同盟結成
- 1930(昭和5)年 総同盟、惟一館を買収。安部磯雄・賀川豊彦・新渡戸稲造・吉野作造ら日本労働会館建設後援会を組織し、支援
- 1931(昭和6)年 惟一館を大改修して日本労働会館(総同盟本部会館)とする
- 1932(昭和7)年 松岡駒吉、総同盟会長に就任
- 1936(昭和11)年 アパートメントハウス青雲荘・友愛病院を建設(設計：山口文象)
- 1940(昭和15)年 戦時体制下、労組・政党に解散圧力高まる。総同盟、解散に追い込まれる
- 1945(昭和20)年 敗戦による民主化で戦後労働運動がスタート。旧社民系を中心に日本社会党結党
- 1946(昭和21)年 日本労働組合総同盟(総同盟)結成、産別会議結成
- 1947(昭和22)年 日本社会党を中心とする片山哲連立内閣発足、総同盟内閣と呼ばれる
- 1949(昭和24)年 総同盟会館・全織同盟会館建設(設計：山口文象)
- 1950(昭和25)年 総評(日本労働組合総評議会)結成
- 1952(昭和27)年 全織同盟・海員組合・全映演・日放労が総評批判声明
- 1954(昭和29)年 総同盟と全織同盟・海員組合などが全労会議(全日本労働組合会議)結成。近江絹糸争議、日鋼室蘭争議が起こる
- 1960(昭和35)年 民社党、民主社会主義研究会議(現政策研究フォーラム)結成。全労会議・民社党・民社研の三位一体体制確立。安保闘争・三池争議起こる
- 1964(昭和39)年 全労会議を解消し同盟(全日本労働総同盟)結成。「人間尊重、友愛と信義」、「4つの民主主義(組合一、産業一、政治一、国際的一)」を打ち出す
- 1968(昭和43)年 同盟、政策3点セット(産業政策・長期賃金計画・福祉ビジョン)掲げる
- 1987(昭和62)年 全日本民間労働組合連合会(民間連合)結成、同盟・中立労連解散、友愛会議(後の友愛会、友愛連絡会。同盟の継承団体)発足
- 1989(平成元年)年 日本労働組合総連合会(官民統一連合)結成
- 2012(平成24)年 友愛会創立100周年。新友愛会館建設。友愛労働歴史館スタート
- 2014(平成26)年 連合結成25年、同盟結成50年、民社党解散20年
- 2016(平成28)年 総同盟(戦後)結成70年、社会民衆党結成90年

